

パルde子育て

第6号 2013年 3月



絵本と子育て

絵本といえば“子どものもの”と思っていませんか。子ども向けだと思っていた絵本の中にも結構奥深いものがあります。

作り手(作者)の思いから読み手(読者)の思いによって絵本は出来上がります。

『いいから いいから3』は、2008年9月に出版された絵本ですが、その時に読むのと2011年3月11日の震災以降に読むのとでは私には違って見えました。

停電した時の「ふつらのせいかつのありがたさがみにしみるのう」というおじいちゃんという言葉は心に染みます。

同じ絵本でも子どもの目、大人の目で楽しめると思います。そもそも絵本とは、絵の本、絵画として見てもすばらしいものが中にはあるのです。

私が子育ての中で衝撃を受けた絵本は、5歳だった息子が図書館で選んできた『もこもこもこ』この本は物語ではなく言葉がほとんどなく第一印象は「なんだこりゃ？」でも本人はお気に入り何度か借りて見ていました。飽きのこない惹き付ける力のある本だったのですね。子どもに教えてもらった絵本です。

子どもの感覚とは鋭いもので子どもに教えられる場面は沢山あります。子どものいうことだからといっておとな目線だけで判断せず、大切なものを見落としてしまわぬよう心掛けたいものです。

K.M

《絵本紹介》

『いいから いいから3』

長谷川義史 絵本館

何事も「いいからいいから」と気にしない、おでこにおへそをつけたおおらかなおじいさん。

そんなおじいさんと暮らしている三世代家族。

その中の“ぼく”の目線からくりひろげられていく

普通ではない日常生活の第三弾。

おじいさんのおでこになぜ、おへそがくっついてあるのかを知りたい方は、第一弾の『いいからいいから』をご覧ください。



『もこもこもこ』

谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版

じ〜っと絵を見つめると、何かが聞こえてきそう。元永定正さん独特の技法で描かれた絵に、詩人である谷川俊太郎さんが言葉を添えた読み込むほどに味が増す。物語のような物語でない、物語でないような終わりのない物語の絵本です。

パルちゃん広場

ぽっかぽか

現在月に1~2回主に午前中に、4つの組合員会館・組合員集会室・店舗集会室の6か所で開催しています。

子育て中の親と子が気軽に立ち寄りホッとできる広場です。いろいろなおもちゃで遊んだり、手あそび、絵本を楽しんだり、おしゃべりの花を咲かせるなど交流を深めています。

参加者から広場スタッフになる人も多く、各広場それぞれの特徴を活かし地域に根ざした広場づくりを進めています

100回を迎えた

ぽっかぽか・阿倍野

阿倍野組合員会館3階ホールで月1回開催している阿倍野広場は、2012年11月6日に100回目の開催を迎えました。

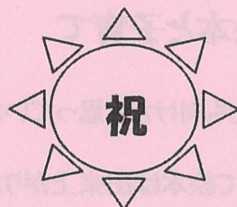
ぴよぴよあおむしの工作をしたり、大型ブロックやすべり台、木のおもちゃで遊び絵本や手遊びを楽しみました。



阿倍野



つるみ店



50回を迎えた

ぽっかぽか・つるみ店

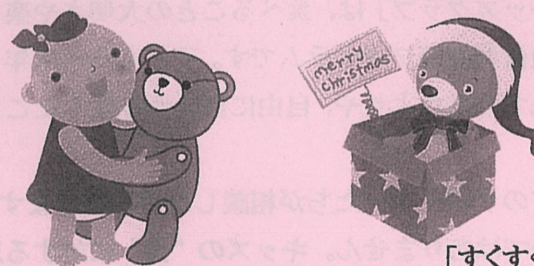
つるみ店2階の集会室で月1回開催し2013年2月20日で50回目を迎えました。毎回和やかな雰囲気の中、人気のビニブロックや電車のおもちゃで遊び、親子のふれあいの場となっています。

つるみ店 広場参加者の声

3才の子どもが生まれて少ししてから参加し2年あまりとなります。転勤族の人などが多い地域で、子育ての情報交換の場となっています。同世代のつながりや、ちょっと先輩世代の人の話が子育ての参考になります。この春から子どもが幼稚園に行くので、社会とのかかわりや地域のつながりのため、私もスタッフになりたいと思いスタッフ養成講座を受けました。自分が共感してもらってうれしかったように参加する人たちと共感し合えたらいいなと思っています。

常設型子育て広場

パルちゃん広場すくすく



「すくすく」は週2回(火・木)の10時から15時まで城東組合員会館3階で開催

しています。たくさんの親子が遊びに来ます。子どもたちは思い思いにお部屋を歩き回ったり、すべり台をすべってみたり時にはお友だちとおもちゃの取り合いをしながら、元気に泣いたり笑ったりしています。お母さんたちは子どもたちの遊びをそばで見守りながら、のんびりとおしゃべりを楽しんでいます。

そんな賑やかで楽しい広場も春は少し寂しい季節となります。保育園や幼稚園への入園や引っ越しのためのお別れがあるからです。いつも遊びに来ていた親子と会えなくなるのは寂しいのですが、これから始まる新しい生活もお元気で、そしてまた広場にも遊びに来て下さいねの思いでスタッフは送り出します。

初めての育児に毎日緊張していたり、ちょっぴりベテランだったり、仕事と育児を両立させようと頑張るお母さんお父さん。そんな人たちにとって、ホッとできる広場であり続けたいと願う「すくすく」です。



みんなでランチ

お昼には、それぞれが持参した昼食をみんなで食べます。(感想文から)

☆家ではほとんど食べないご飯をたくさん食べてくれました。

☆大変だから他でご飯なんて食べられないと思っていたけどこういう昼食もありだなと思った。

☆育児のストレスがおしゃべりで発散できました。

☆みんなで食卓を囲んでご飯が食べられるのいいと思いました。

「すくすく」3周年イベント

2012年12月20日(木)

乳幼児が日ごろ接する機会が少ない生の音楽に触れ、親子でいっしょに楽しんでもらいたい!そんな思いで「すくすく3周年イベント 乳幼児と楽しむコンサート」を開催しました。

イベントのメインは「わくわく音楽隊」によるコンサート。エレクトーンの演奏にのせ、ダンスや親子遊びをしたりペープサート・影絵などを鑑賞しました。

聴いたことがある音楽が流れると、子どもたちは夢中になって踊ったり歌ったり。お母さんだけでなく、お父さんやおばあちゃんとの参加もあり、音楽を通して癒され、たくさんの温かい笑顔に包まれたコンサートでした。

コンサート終了後は、すくすくスタッフによる「すくすく3周年イベント」にうつりました。大型絵本「ぐりとぐら」を読み終えると、物語に出てきた大きなたまごが登場しびっくり!たまごが割れるとペットボトルでできたお誕生日ケーキがあらわれ、みんなで「Happy Birthday」を歌いお祝いをしました。



パルちゃん広場ぽっかぽか” ここでやってま〜す

【寝屋川】 寝屋川 組合員会館	【阿倍野】 阿倍野 組合員会館	【城東】 城東 組合員会館	【枚方】 枚方 組合員会館	【守口】 守口 組合員集会室	【つるみ店】 つるみ店 集会室
-----------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	-----------------------

木のおもちゃや絵本・温かいコーヒーを用意して待っています
くわしくは、ばるタイムやチラシをご覧ください

たべる*たいせつ キッズクラブ



「たべる*たいせつキッズクラブ」は、食べることの大切さや楽しさを知ってもらうための通信型食育プログラムです。子どもたちは年4回届けられるテキストを見てのおたよりや、自由に自分が体験したことを書いて送ってきます。

お返事はボランティアのサポーターたちが相談しながら書きますがおたよりを採点・評価するものではありません。キッズの“食”に対する思いに共感しつつ、その興味や好奇心を認め励ますお返事です。

また7月には近江農産の産地見学で、畑や水田を見学し、お漬物について学びました。11月に開催したキッズキッチンでは、いろいろな野菜を使って元気が出る料理を作りました。

キッズクラブは、ほぼ5歳から小学生対象にしています。小さな時に身につけた“食”の基本は、大きくなって生活の中で大切な柱になることでしょう。子どもたちの成長を応援するキッズクラブの仲間がもっと増えてくれることを願っています。



子育てセミナーより

食べることは大切

あせらずゆっくり 子どもの“食”を考えよう

2012年10月31日(水)

子どもの健やかな成長を願わんばかりに「～でなければならない」「きちんと」「私の責任」と思い悩む人は多いのではないのでしょうか。

今回のセミナーは女性ライフサイクル研究所の森崎和代さんを講師に迎え、子どもの“食”をおおらかにとらえ、何を大切にすることが大事であるかを学び、考え合いました。

参加者同士4～5人でグループになり“食”って何?を切り口に食に関するイメージを出し合いました。‘楽しみ・好き嫌い・成長・栄養・家族・ダイエット・一生続くもの・コミュニケーション・命をいただく…’各テーブルでいろいろな思いが出されました。

次に“食”の思い出深い味は? ‘母の卵焼き・お弁当・給食・お誕生日の食事・おはぎ…’

子どもの頃苦手だった食べ物? ‘ピーマン・なすび・しいたけ・納豆…’ そう言えばいつの頃からか食べられるようになっていくものも多くあることに気づいたり。

“食”を語ってみるとそこには味だけでなく、場所であったり人とのかかわりであったり、その時々感情などがセットになって思い出されました。

“食”の基本(主食と一汁二菜、量より質、旬)を心がけ「自分の食べられる量を知ることで自分で決定し責任をもつ力を育てる」「感謝の心を育てる」「人といっしょに食事を楽しむことからコミュニケーション能力を育てる」そしてなにより「食べることは楽しい♡」など“食”を通して学ぶことがいっぱいあることに気づけました。

編集者のつぶやき

超未熟児で生まれた現在中学2年生の一人娘。左眼が曇るというので眼科へ行くと、未熟児網膜症のレーザー治療のあとが、成長するとともに引っ張られて出血したといわれました。“生きていてほしい”と願ったことがよみがえってきました。 =しばらくは 勉強!勉強! と言わないでおこう=

～ お問い合わせ先 ～

おおさかパルコープ組合員活動サポートセンター

TEL 0120-299-244

FAX 0120-299-230

発行 2013年 3月

おおさかパルコープ

子育てサポートステーション